

令和元年度 社会教育団体振興協議会 総会・研修会 出席報告



全麵協の目的である「そばによる地域振興」を、行政や関係団体と連携して進めるため、全麵協は「社会教育団体振興協議会」に4年前に入会しました。このほど、当協議会の総会と研修会に出席しましたので、その概要などについてご報告いたします。

日時：令和元年7月3日(水) 午後3時～

会場：国立オリンピックセンター記念
青少年総合センター(渋谷区代々木公園町)

内容：

1. 令和元年度 総会 …… 原案通り承認
 - 1) 事業報告・決算について
 - 2) 事業計画・予算について

2. 研修会 「AI(人工知能)と共存する人づくり」 講師:千葉敬愛短期大学 明石要一・学長

①時代は変わった

教育には、縦(学校)と横(地域)の中で結ばれる人間関係が重要だが、地域の人口が減少して「第三の大人」である地域のおじさん・おばさんとの接触が無くなってしまった。だからこそ、「異文化との接触」「外での体験」を学校教育に取り入れることが必要である。

「判断力」は学校教育で教えることが出来るが、「決断力」は社会教育の中で鍛えて行くほかに無い。

②公民館と学校はどこが違うか

- 1) 公民館に「修了」はあるが、学校のような「卒業」は無い。
- 2) 学校では答えは「一つ」だが、公民館では「複数」の答えがある。
- 3) 学校は生徒が教師を選ぶことは出来ないが、公民館は講師を選ぶことが出来る。
- 4) 公民館は「誰が生徒か先生か」と唄われている『メダカの学校』で共に育ち合う所だが、学校は「先生が生徒を教える」所で『スズメの学校』である。
- 5) 学校は「釣り堀」で魚釣りをするのに似ているが、公民館(社会教育)は太平洋で魚釣りをするようなもので、受講者を集める為には「マーケティング」が必要である。

③長嶋監督と野村監督とはどこが違うか

- 1) 記録に残る(学校教育)のは野村氏、記憶に残る(社会教育)のは長嶋氏。
- 2) 「感性」で指導したのは長嶋氏、「理論」で指導したのは野村氏。
- 3) 「口伝」で教育した長嶋氏は社会教育、「文章」で教育した野村氏は学校教育。

※10歳の子供の半数が100歳まで生きると言われている。100歳まで生き抜く力は、20年間ほどしか学ばない「学校教育」で培うのではなく、80年間学ぶことのできる「社会教育」で培うのである。AIと共存できる人づくりは、社会教育こそが担うべきものである。

3. 感想など

社会教育団体振興協議会には、「全国公民館連合会」「日本青年館」「ガールスカウト日本連盟」「修養団」「モラロジー研究所」など全国規模で歴史ある著名な団体が加盟しています。私は「全麵協研修センター」チラシを持参、出席者全員に配布して研修センターの紹介を行ないました。また、研修センターで社会教育関係者を対象に「新そばの集い(仮称)」を開催したいと提案したところ、賛同の大きな拍手を得ることが出来ました。

研修会で「時代が大きく変わりつつある今こそ社会教育が大切だ。」と力説された明石先生の講義は大変に興味深く、私たち全麵協が行っている活動とも関連性があると強く感じました。

(報告:広報渉外部長 谷端淳一郎)

